

留学報告書

2017/05/25

アリゾナ大学植物科学科

種田 修三

昨夏の怒涛のパナマサンプリングから約8ヶ月後の今年3月、私は南米チリに降り立った。

チリは南米の太平洋側に位置している国で、首都サンチアゴは南米有数の大都市である。なぜチリを研究拠点として選んだのか、その理由はチリの地理にある（ダジャレは仕方がない笑）。チリの南部では太平洋からの偏西風がアンデス山脈にぶつかり多くの雨が降る。その多雨な気候に加えて、チリ南部は北側のアタカマ砂漠と東側のアンデス山脈によって長い間隔離されているため、Valdivian temperate rain forest（直訳するとバルディビア温帯雨林）という、温帯にもかかわらず熱帯雨林のように植物の多様性が高く、固有種の多い森林が存在する。この類まれなる植生を求めて、多くの植物・生態学者が訪れる。我々もその植生を求めてチリを訪れた。

前回と同じく様々な植物から真菌を単離しようという目的でチリ南部に2週間滞在した。森の目の前に宿泊したパナマ滞在とは異なり、今回はテムコという大きな街に滞在した。パナマでは滞在の後半は電気がなく、宿内に蛇も出たのだが、今回は道が綺麗に舗装されており、目抜き通りにはたくさんのバーやレストランがあった。滞在最終日は実験が忙しかったため、チリでの最後の食事はまさかのドミノ・ピザだった。

それはさておき、本題のサンプリングだが今回はあっけなく終わった。パナマの熱帯雨林と異なり、チリの森林は全て観光地として保護されており、サンプリング地点まで全て車で行くことが出来たためだ。歩いたのはほんの僅かで、数時間土砂降りの雨の中を登山したパナマはなんだったのだろう。あっけなかったとはいえ、サンプリング中には楽しい出会いがある。チリを代表する、へんてこな形をした植物である *Araucaria araucana* *¹ はもちろん、野生のタランチュラを人生で初めて見る事が出来た*²。そして今回は何ととっても、火山クレーターなど美しい自然の中でサンプリングできたことが幸せだった*³。

しかし、サンプリングがあっけなかった代償だろうか、神様は我々に違う方向から試練をお与えになった。その一部始終を昔話風を書くところなる。

~むかしむかしチリのあるところに、合計十数人の教授と学生がおりました。ある日、教授たちは砂漠へサンプリングに、学生たちは街へ研究室のセットアップに行きました。学生たちが研究室のセットアップをしていると、どんぶらこ〜どんぶらこ〜と、研究サンプルの処理に必要な機械が突然壊れました。この機械がないと研究は失敗に終わります。でも何度やっても電源が入りません。「おや、まあ！」驚いた学生たちは、その機械を直そうと真っ二つに分解してみると、なんと中には全く異常がありませんでした。途方にくれた学生達は仕方なく夜中までビールをあおり、精神的ストレスから開放されようと試みるしかありませんでした。思い浮かぶのは失望に満ちた教授の顔。もう夜中の2時。これで最後と思い、もう一度電源を入れてみると、

あら不思議、正常に機械が動くではありませんか。翌日街へ帰ってきた教授達はこの顛末を聞き驚きましたが、これ以降機械は壊れることもなく動き続けましたとき。～

ということで、今回の旅ではサンプリングは簡単に終わったものの、サンプルを処理する際に困難に直面したのだった。この他にもボヤ騒ぎ等のトラブルが幾つかあったのだ。機械が止まった時は本当にどうしようか、何で償おうかと真剣に考えた。焼き土下座にならなくて本当に良かった（わからない方は無視してください笑）。次回は2018年4月の南アフリカである。次回の旅行も私の研究には直接関係ないが同行をお願いされている。いよいよこのプロジェクトも折り返し地点にやってきた。ほんの少し前にプロジェクトが決まってパナマに行って、、、と思っていたのだが、時間が経つのは本当に速い。時の速さに負けないように、しっかりと地につけてアリゾナでの生活（と海外でのサンプリング）をもっともっと楽しんでいきたい。



*1: *Araucaria araucana*



*2: 野生のタランチュラ



*3: チリの美しい自然